

令和7年度 森林環境譲与税 使途公表

令和8年10月

静岡市 環境局 森林経営管理課

森林環境譲与税の制度概要（林野庁HPより抜粋）

1 森林環境税及び森林環境譲与税の趣旨

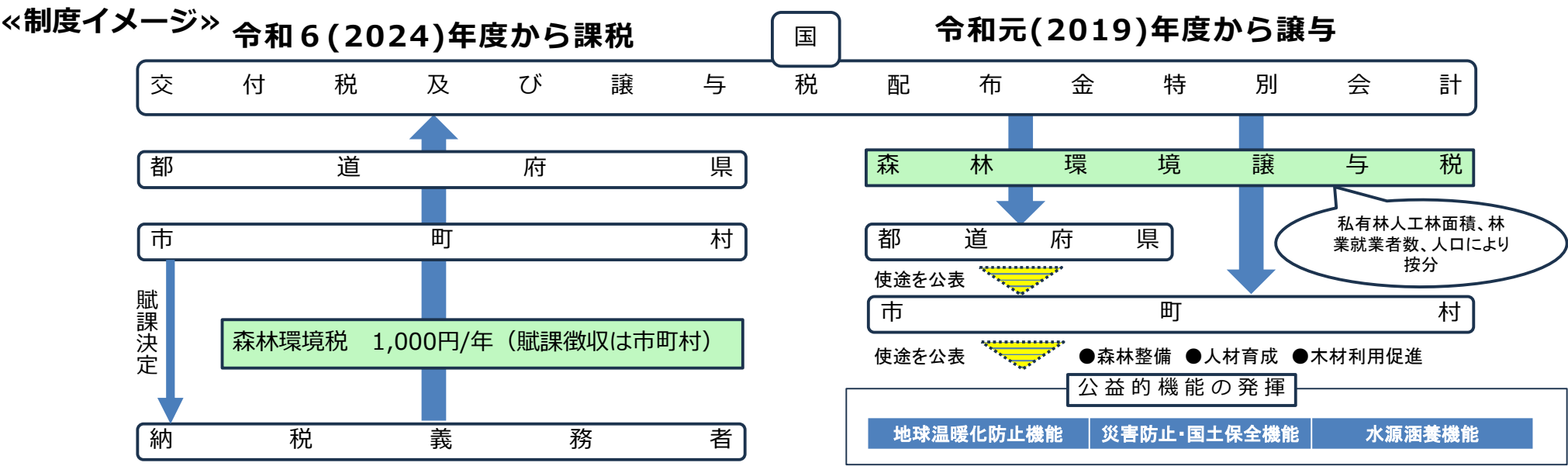
森林の有する公益的機能は、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や水源の涵養等、国民に広く恩恵を与えるものであり、適切な森林の整備等を進めていくことは、我が国の国土や国民の生命を守ることにつながる一方で、所有者や境界が分からない森林の増加、担い手の不足等が大きな課題となっています。

このような現状の下、平成30(2018)年5月に成立した森林経営管理法を踏まえ、パリ協定の枠組みの下における我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、平成31(2019)年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設されました。

2 森林環境税及び森林環境譲与税の仕組み

「森林環境税」は、令和6(2024)年度から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として1人年額1,000円を市町村が賦課徴収するものです。また、「森林環境譲与税」は、市町村による森林整備の財源として、令和元(2019)年度から、市町村と都道府県に対して、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按分して譲与されています。

森林環境譲与税は、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づき、市町村においては、間伐等の「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」に充てることとされています。



森林環境譲与税の取組方針

1 静岡市の方針

森林の公益的機能の高度な発揮を目指す「環境林」と資源の循環利用の促進を図る「循環林」に区分し、本市の森林の持つ機能を最大限生かす。

森林の力を未来につなぐため、①森林整備、②人材育成・担い手確保、③木材利活用に森林環境譲与税を活用し、森林の公益的機能を最大限に発揮し、豊かな森林の恵みを楽しむまちの実現を目指す。

2 静岡市の取組事例

① 森林の整備に関する施策



人工林と各段階における施策

(出典：http://www.rinya.maff.go.jp/jrinseisingikaiattachpdf170214si-10.pdf)

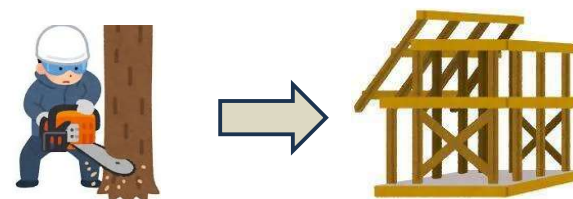
- 管理されていない森林所有者への意向調査等
- 公私有林の整備、造林・保育・搬出等への支援
- 路網整備(森林作業道や林道の改良、修繕)

② 人材育成・担い手の確保



- 林業関連産業を効果的にPRするイベントの実施
- 林業の効率化・労働災害防止に向けた支援
- 林業経営体等が行う研修への支援

③ 木材利用の促進や普及啓発



- オクシズ材を活用する建築主に対する支援
- 森林認証の取得や審査費用への支援
- 森林の役割や市産材の利用拡大への支援

森林環境譲与税の取組方針

3 静岡市の活用実績と今後の実施予定事業

■活用状況（全体像）

年度	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	計	未執行額の活用方針
活用額(千円)	100,971	214,566	216,026	283,310	283,310	370,452	390,360	1,858,995	未執行額なし
譲与額(千円)	100,971	214,566	216,026	283,310	283,310	370,452	390,360	1,858,995	

■令和7年度の活用状況

区分	事業費（円）		概要説明 ※一覧は次頁参照
		うち 森林環境譲与税	
① 森林の整備に関する施策	338,635,834	307,910,170	手入れが行き届いていない森林を中心に、適切な整備を実施し、森林の持つ公益的機能の維持・向上を図る。
② 人材育成・担い手の確保	25,230,557	21,073,757	将来を担う人材の育成や担い手確保を図るため、林業従事者の技術向上研修や、新規就業者の確保に向けた取組を推進する。
③ 木材利用の促進や普及啓発	213,291,873	61,376,073	公共施設等における木材利用の推進や、オクシズ材の活用に向けた取組を進めるとともに、木材利用の重要性に関する普及啓発を行う。
④ 基金への積立	0	0	静岡市森林環境基金への積立
合計	577,158,264	390,360,000	

■今後の実施予定事業

（仮称）静岡市森林づくり推進機構の設立（令和9年度以降）

木材生産に適さない森林を、水源涵養・土砂流出防止・生物多様性確保を目的とした「環境林」として管理する新方針を示した。現状でも手の入る予定のない人工林が2万5千haあり、今後さらに相続等に伴い手の入らない人工林の増加が懸念されている。収益を生まない環境林を管理する主体はなく、専門的・継続的に管理する主体が必要である。そのため、所有者から市が管理を受託する又は所有する環境林を専門的かつ一元的に管理する体制を構築し、森林の公益的機能の維持・向上を進める。

令和7年度 森林環境譲与税の活用事業一覧

事業名		事業説明	決算額内訳		割合
			決算額	うち譲与税活用額	
1 森林の整備に関する施策					
1	森林カーボンクレジット創出促進実証	CO2吸収量以外の公益的機能をクレジット化する実証を実施	56,866,053 円	56,866,053 円	14.6%
2	民有林造成事業補助金	民有林で行われる造林、保育、搬出等の造成事業の支援を実施	38,368,433 円	38,368,433 円	9.8%
3	森林経営管理制度推進事業	管理されていない人工林について森林所有者の意向調査、集積計画の作成等を実施	23,210,000 円	23,210,000 円	5.9%
4	静岡県森林づくり基本計画の策定	静岡市のこれからの森林経営管理方針を示すための計画策定を実施	6,875,580 円	6,875,580 円	1.8%
5	放任竹林対策事業	里山環境を復元するため、放任竹林整備を実施	6,329,612 円	6,329,612 円	1.6%
6	エリートツリー・早生樹の森林づくり推進事業	成長が早い品種（エリートツリー・早生樹）植栽地の維持管理を実施	3,465,000 円	3,465,000 円	0.9%
7	森林現況モニタリング調査	令和5年度に得た初期データを基に森林の変化を監視し、指導等を実施	2,684,000 円	2,684,000 円	0.7%
8	市有林維持管理	間伐、下刈り、作業道補修等、市有林の保育管理を実施	10,814,292 円	2,638,628 円	0.7%
9	針広混交林化事業	DSE菌を広葉樹に応用した苗木の実証地選定に係る調査や環境林整備を実施	866,800 円	866,800 円	0.2%
10	森林病虫害対策事業	「ナラ枯れ」や「マツ枯れ」により枯れてしまった被害木の伐倒等を実施	792,000 円	792,000 円	0.2%
11	林道維持管理（維持工事、橋梁補修）	林道機能の保全と安全な通行確保のため、林道改良工事を計画的に実施	92,630,100 円	70,080,100 円	18.0%
12	林道維持管理（修繕）	経年劣化等により生じた林道施設の法面崩壊、路面洗堀及び路肩欠損の復旧を実施	68,462,064 円	68,462,064 円	17.5%
13	林道整備事業（改良工事）	林道機能の保全と安全な通行確保のため、林道改良工事を計画的に実施	27,271,900 円	27,271,900 円	7.0%
2 人材育成・担い手の確保					
1	林業機械購入費、作業道開設補助金	林業の作業効率の向上や低コスト化を図るため林業機械の購入や作業道の開設を支援	19,737,300 円	15,580,500 円	4.0%
2	林家指導等補助金	林家指導、林業技術者の育成、林業技術の向上を目的とした活動団体を支援	4,395,740 円	4,395,740 円	1.1%
3	産業フェア「林業ゾーン」の開催	林業関連産業を効果的にPRするためにイベントを実施	649,500 円	649,500 円	0.2%
4	林業担い手育成・支援対策事業補助金	林業にかかる資格取得や災害保険加入等、安全対策に関する経費を支援	448,017 円	448,017 円	0.1%
3 木材利用の促進や普及啓発					
1	藁科地域小中一貫校整備事業	オクシズ材を活用した木造の施設一体型小中一貫校を建設するための設計等を実施	158,600,000 円	24,000,000 円	6.1%
2	オクシズ材活用促進事業費補助金	オクシズ材を活用する建築主に支援を実施	25,419,480 円	15,419,480 円	4.0%
3	高山・市民の森維持管理	森林の散策と学習展示施設「森の恵」の維持管理を実施	10,514,231 円	10,514,231 円	2.7%
4	オクシズの森体感教室	出張林業教室等イベントで林業家とつながる機会を通じた普及啓発を実施	3,768,656 円	3,768,656 円	1.0%
5	里山公園（谷津山）の利活用促進	森林を活かした里山公園の利活用促進に向けた計画作成や樹木・竹林の伐採を実施	2,957,900 円	2,957,900 円	0.8%
6	オクシズの漆の里構想事業	オクシズ「漆の里」協議会が実施する人材育成、普及啓発等運営費の一部を負担	2,000,000 円	2,000,000 円	0.5%
7	南アルプス共生推進事業	南アルプスの自然環境を体験する機会を提供し、価値を広く周知	2,208,854 円	1,093,054 円	0.3%
8	森林認証取得事業補助金	森林認証の更新及び新規取得審査費用を支援	881,752 円	881,752 円	0.2%
9	保全活動エリア整備事業	南アルプスエリアの植樹や防護柵設置、伐採した木材を利用したワークショップを実施	6,941,000 円	741,000 円	0.2%
			577,158,264 円	390,360,000 円	100%

1 - 1 森林カーボンクレジット創出促進実証

R7活用額
56,866,053円

01 事業内容

森林カーボンクレジット創出促進実証

- 新たな森林カーボンクレジットの創出スキームの作成。
- 吸収量算定に係るデータ収集・解析及び方法論の設計。
- 第三者認証を見据えたモニタリング手法の確立。
- 認証機関との調整及び方法論の実証。
- 実証結果のとりまとめ及び情報発信。

03 取組の目的

- 木材生産に適さない森林においても管理を促進する新たなインセンティブとして、森林カーボンクレジットを創出し森林の公益的機能の維持・向上を進める。

02 取組の背景

- 市内森林を、木材生産を主体とする「循環林」と、森林の公益的機能の発揮を重視する「環境林」に区分し、それぞれの特性に応じた管理を推進している。
- 「環境林」は木材収入が見込めず管理コストの負担が大きいことから、森林所有者等による適切な管理が届かず、荒廃が進行している。
- 静岡市では、戦後の拡大造林政策により植えられた針葉樹人工林の多くが主伐期を迎えているが、急峻な地形や路網整備の遅れにより施業が困難であり、伐採・再造林を含めた適切な森林管理が進んでいないことが課題となっている。

04 実績

- 令和7年9月に実証事業者2者と協定締結、実証開始
⇒2027年度まで実証予定。企業等による環境価値への投資を呼び込むことで、森林整備の持続的な財源確保につながる可能性がある。

01



ドローンによる調査

ドローンにより上空からレーザー測量を行い、森林の樹種、傾斜などの情報を取得。

02



ドローンで撮影した画像

ドローン調査により収集した情報を整理することで、材積量やバイオマス量を計測。

03



環境DNA調査

クレジットの創出を行う森林にどのような動植物がいるのかを調査するため、川の水を採取し、DNA調査を実施。

1 - 2 民有林造成事業補助金

R7活用額
38,368,433円

01 事業内容

民有林で行われる造林、保育、搬出等の木材生産を目的とした
森林施業の助成

①森林環境保全直接支援事業への上乗せ

補助対象：①人工造林等、下刈り、除間伐等、鳥獣害防止施設等整備

②人工造林等（スギ・ヒノキ以外）森林作業道

②間伐材等搬出奨励事業への上乗せ

補助対象：間伐材搬出

03 取組の目的

- ・ 森林整備の促進による森林荒廃の防止及び災害リスクの低減。
- ・ 木材生産量の増加による林業経営の安定化及び地域経済の活性化。
- ・ 再造林の推進による森林資源の循環利用及びCO₂吸収量の確保。

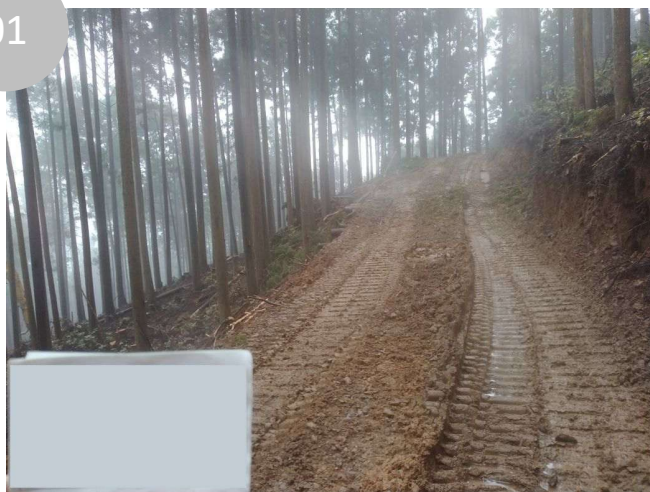
02 取組の背景

- ・ 静岡市では、育林、伐採、搬出に係るコスト（支出）高と木材価格（収入）の低迷により、森林管理が停滞し、山地災害の防止・水源の涵養・木材をはじめとする林産物の供給等、森林の有する多面的機能を十分に発揮できていないことが課題となっている。
- ・ 造林、下刈り、除伐、間伐、枝打ちなど林業経営体が行う森林整備を支援することで、循環型林業の推進を図る。

04 実績

- ・ 森林施業面積 150.09ha（人工造林6.53ha、下刈り15.51ha、間伐122.78ha、枝打ち 2.45ha、保育間伐 2.82ha）
- ・ 作業道 14,238m
- ・ 鳥獣害防止施設等整備 2,416m
- ・ 間伐材搬出奨励 7,798m³

01



作業道

森林内での施業をするために、まず作業道の開設を実施。

02



間伐

間隔を空け、木を伐採し、搬出を実施。

03



人工造林

1haあたり3,000本のヒノキを植樹。

1 - 3 森林経営管理制度推進事業

R7活用額
23,210,000円

01 事業内容

今年度は特に災害発生リスクが高いとされる伐採跡地を対象に、伐採跡地の現状を所有者が把握しているかを確認するとともに、今後の造林計画等についての調査を実施した。

①大川・玉川地区

対象地区内の伐採跡地及び旧大川村3林班を対象に、所有者への意向調査及び現地測量を実施した。

②玉川地区

対象地区内の伐採跡地を対象に、所有者へ意向調査を実施した。

03 取組の目的

- 伐採跡地の現状や所有者の認識、今後の造林計画等を把握し、必要に応じて造林指導につなげることで、伐採後の適正な森林管理を促進する。また、再造林や森林の適切な保育を促進し、森林の公益的機能の回復や災害発生リスクの低減を図る。

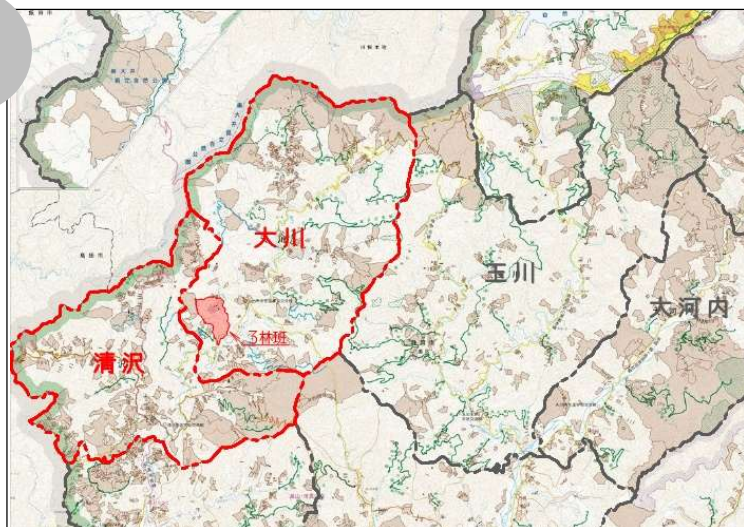
02 取組の背景

- 森林は、自然災害の防止、生物多様性の保全、地球温暖化の抑制など、公益性の高い多面的な機能を有している。一方、近年は所有者の高齢化や林業の採算性の低下等により、適正に管理されず、荒廃する森林が増加している。
- 伐採跡地とは、立木の伐採後に苗木の植栽が行われず、または植栽した苗木が育たないなどの理由により、裸地の状態で残されている人工林をいう。立木が存在しない伐採跡地では、土壌の流出等により災害発生リスクが高まることが懸念される。
- このため、市では衛星画像の解析等により把握した伐採届の提出が確認できない伐採跡地を対象に、所有者の認識や現状、今後の造林計画等を調査し、必要に応じて造林指導につなげる取組を実施した。

04 実績

- 伐採跡地調査実施箇所数 85箇所+旧大川村3林班80.17ha
- 調査による現状把握箇所 56箇所+旧大川村3林班50.27ha
- アンケート調査平均回答率 64.91%

01



大川・清沢地区 対象区域図

意向調査実施箇所：39箇所+大川3林班約80ha

意向確認箇所：26箇所+大川3林班約50ha

回答率（筆数）：80.87%

02



玉川地区 対象区域図

意向調査実施箇所：46箇所

意向確認箇所：30箇所

回答率（筆数）：48.95%

1 - 4 静岡市森林づくり基本計画の策定

01 事業内容

「静岡市森林づくり基本計画」の策定

- 静岡市の今後の森林経営管理の方針を決めるため、森林・林業政策に精通した有識者等から専門的な意見を聴取する「静岡市持続可能な森づくり研究会」を設置・運営し、計画策定に向けた検討を行った。
- 令和8年3月に「静岡市森林づくり基本計画」を策定し、市内森林を「環境林」と「循環林」に分類し、それぞれの機能に応じた持続可能な森林経営管理を推進することを示した。

03 取組の目的

- 公益的機能の高度発揮を目指す「環境林」と、森林の有する公益的機能に配慮しつつ、木材生産を主体として森林資源を循環利用する「循環林」とに分類し、それらの森林づくりを社会全体で支える。

02 取組の背景

- 近年、適正に管理されない森林が増加していること、気候変動に伴う豪雨や台風の影響による山地災害が頻発・激甚化していることから、森林の有する公益的機能である水源涵養機能や根系による表層崩壊防止機能等の維持増進が必要になっている。
- 50年の育林の対価としての立木価格が、所有者の再造林意欲を引き出すのに十分な水準でなく、再造林されない森林が増加している。
- 小規模所有者が所有する森林の中には、所有者不明で管理されない森林が増えている。
- 地形条件が悪く林業経営が成り立つ場所が限られることで、適切な間伐等の施業が行われない。

04 実績

- 静岡市持続可能な森づくり研究会の開催（9回）
- 静岡市森林づくり基本計画の策定

01



静岡市持続可能な森づくり研究会

有識者や地域の代表など12名を委員とする研究会を9回開催。

02



研究会会長から市長への提言書の手交

研究会の意見やパブリックコメントを反映した計画案を、提言書として手交。最終調整を経て3月末に計画を策定。

03



静岡市森林づくり基本計画

現在計画本体や概要版は静岡市公式HPからダウンロード可。内容をPRするための展示や出前講座を実施。

1 - 5 放任竹林対策事業

01 事業内容

里山保全団体への活動支援による放任竹林対策の推進

- 放任竹林整備に必要な消耗品等の支給
- 放任竹林対策推進事業補助金の交付
- 自走式竹破碎機の貸出

03 取組の目的

- 里山環境を保全するため、地権者や農林業者のみではなく、里山の恩恵を享受している市民も含めた里山の保全・管理体制を確立し、放任竹林対策の推進を図る。

02 取組の背景

- 近年、全国的に放任竹林が問題視されている。かつての茶畑やみかん畑等が所有者等の高齢化によって、手入れがされず竹林化してしまうことで、生物多様性の低下や生活環境の悪化、土砂災害の危険性等の問題を引き起こしている。
- 静岡市では、放任竹林の整備を行っているボランティア団体の支援を行うことで放任竹林問題の改善に取り組んでいるが、ボランティア団体は資金不足や後継者不足等の課題を抱えており、補助金や消耗品等支給、竹破碎機の貸出、普及・啓発を行っている。

04 実績

- | | |
|------------------|------|
| • 放任竹林対策関連補助金の交付 | 8団体 |
| • 消耗品等の支給 | 33団体 |
| • 竹破碎機の貸出 | 86件 |

01



放任竹林整備

ボランティア団体に交付した補助金や消耗品等を活用し、放任竹林の整備や植樹などを実施。

02



竹材の利活用

放任竹林整備によって排出された竹材を様々な方法で利活用。（竹工作や竹炭、堆肥化など）
※上図は竹の積み木を製作し、産業フェアで出展した様子。

03



竹破碎機の貸出

伐採した竹を破碎し、マルチング材や堆肥として活用。

1-6 エリートツリー・早生樹の森林づくり推進事業

01 事業内容

市内において成長が早い樹種（エリートツリー・早生樹）を試験植栽し、植栽の適地性、成長度合い、育成に係る初期コスト等の基礎データを収集・発信することで、当該樹種の導入等を促進し、安定した木材流通を実現する。

- エリートツリーの維持管理（門屋、西里、井川シャウノウ）
- 早生樹の維持管理（千代、富厚里）

03 取組の目的

- 木材生産サイクルが短縮され、育林・木材生産コストが低下し、効率よく木材が生産される。
- 木材生産を目的とした経営管理が適切になされ、林業の循環が途切れることなく継続される。

02 取組の背景

- 国内の林業は、立木価格（137万円/ha）に対して造林初期費用が高く（275万円/ha）、また丸太販売価格（398万円/ha）の半分以上が伐出・運搬コスト（261万円/ha）で占めており、採算が合っていない。
- スギやヒノキといった一般的な林業用樹種は、木材として出荷するまでに40～60年要するのに対し、エリートツリーは約30年、早生樹（センダン）は15年～20年で出荷することができる。
- 静岡市では、森林資源の成熟化が進む一方、伐採・再造林の循環が十分に進んでおらず、将来にわたる木材供給体制の確保が課題となっている。

04 実績

- 下刈3.55ha
 門屋市有林0.5ha、西里市有林0.5ha、井川シャウノウ市有林0.55ha、
 千代市有林1ha、富厚里市有林1ha

01



西里市有林エリートツリー試験植栽地

02



千代市有林早生樹試験植栽地

下刈の様子。下刈りを行うことで、周りの草に負けずに光や養分を十分に受けられるようにし、木を早く健全に成長させることができる。

1 - 7 森林現況モニタリング調査

01 事業内容

森林現況モニタリング調査

- 令和5年度に作成した市内森林の「裸地」等の現状データを初期値として、「裸地」等の森林状況の変化をAI判読技術によって把握する。
- 森林現状の変化の原因を森林情報システムの森林簿情報等と照合し、森林所有者等に適宜指導を実施する。

03 取組の目的

- 再造林未済地や伐採箇所を早期に把握でき、適切な指導や森林整備につながる。
- 広大な森林を効率的に監視でき、現地調査に係る人的負担やコスト縮減が図られる。
- 森林経営管理制度や再造林推進施策に必要な基礎データとして活用できる。

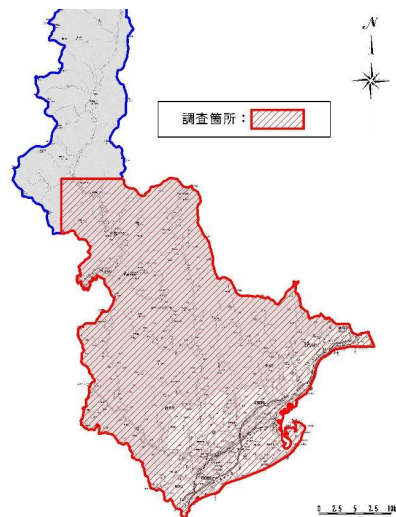
02 取組の背景

- 人工林皆伐後の再造林（植林）が完了していない箇所の把握について、通報や届出等による把握に頼っていた。
- 無届伐採や違反開発行為の早期発見が難しく、森林の適正管理や災害防止の観点から課題となっていた。
- 静岡市では、広大な森林面積を持つため、市内の森林における全ての伐採及び開発行為の一つ一つを監視することができていないことが課題となっている。

04 実績

- 令和6年度と令和7年度の衛星画像の比較を行い、伐採跡地の変化を確認

01



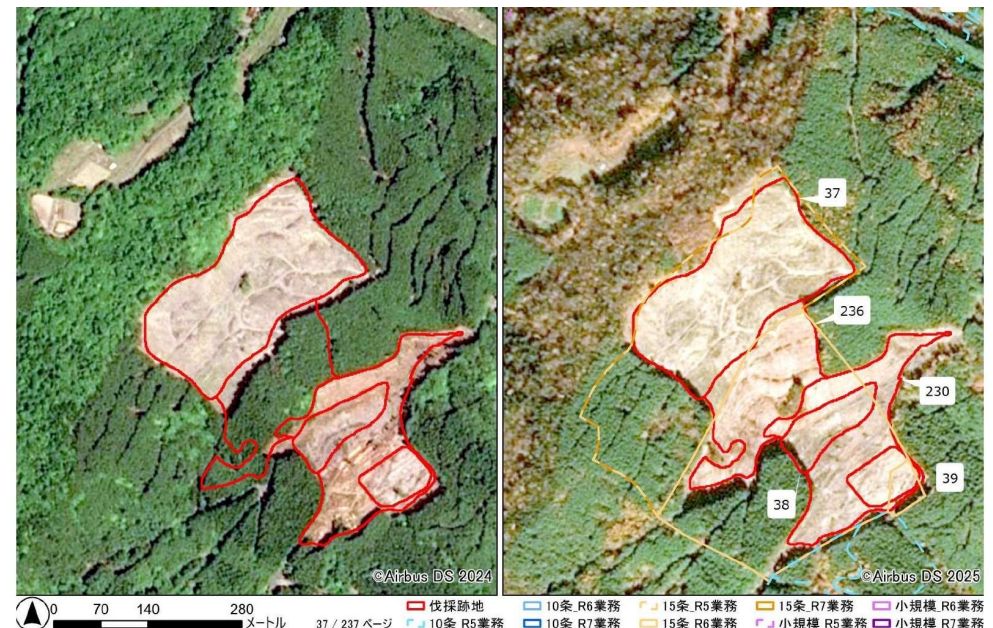
森林現況モニタリング調査箇所

調査面積：580km²（赤枠部分）

02

森林状況変化の判読の様子

左：2024年衛星写真
右：2025年衛星写真



1 - 8 市有林維持管理

01 事業内容

市有林維持管理

- 市有林巡視事業
- 市有林維持管理 下刈り、ネット維持管理、間伐、皆伐、倒木処理等
⇒富厚里市有林、清水小河内市有林、北沼上市有林、井川勘行峰市有林

03 取組の目的

- 適切な森林整備により、土砂災害防止や水源涵養など森林の公益的機能の維持向上が図られる。
- 倒木処理等を行うことで、林道通行や周辺施設利用者の安全確保につながる。
- 間伐等により森林内への光環境が改善され、森林の健全化及び生物多様性の保全が図られる。

02 取組の背景

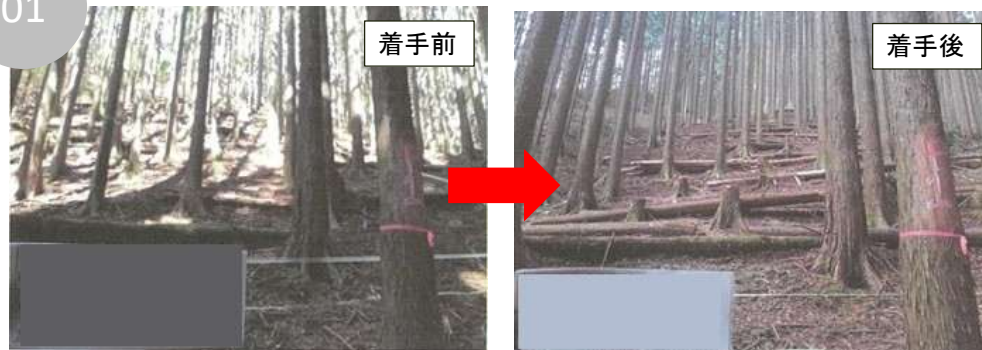
- 森林整備を怠り木々が過密な状態になると、地面に十分な日光が届かなくなり下草が生えなくなるとともに地表がむき出しになり、雨で土壌が流出しやすくなるため、山崩れや土砂災害のリスクが大幅に高まる。
- 静岡市の市有林内には、展望台や登山道など市民の皆さんが自然に親しめる施設があり、安全に利用していただくためには、倒木処理や遊歩道周辺の維持管理など、広大な森林を継続的に管理していく必要がある。

04 実績

- 下刈2.80ha、間伐5.96ha、作業道補修1,000m

富厚里市有林下刈2.8ha
清水小河内市有林間伐2.12ha、北沼上市有林間伐3.84ha
井川勘行峰市有林作業道補修1,000m

01



北沼上市有林

間伐の様子。木材の生産を目的とするのではなく、森林が過密になって木の成長が悪くなったり、森林が荒廃したりすることを防ぐため、必要最小限の間伐を実施。

02



井川勘行峰市有林

作業道補修の様子。森林の健全な状態を維持するために必要な間伐など、最小限の森林管理を行うために必要な施設で、整備を安全かつ適切に行うため作業道の補修を実施。

01 事業内容

市内の森林環境を保全するため、荒廃した針葉樹人工林を対象に針広混交林化を目指すことで、公益的機能の維持・増進及び森林管理コストの最小化を図る。

①DSE苗木植栽候補地の選定

スタートアップ共創事業による、DSE菌共生苗木を翌年度に植栽するため、勘行峰及び上坂本市有林にて現況調査等を実施する。

②作業道復旧

経営管理制度にて調査を行った森林内作業道の復旧を図る。

03 取組の目的

- DSE菌共生苗木の効果検証および安全性試験の確認を行うとともに、どちらの市有林が植付に適しているかの調査を行う。
- 作業道を復旧させることで、森林経営計画に含めることができなかった森林の整備を促進する。

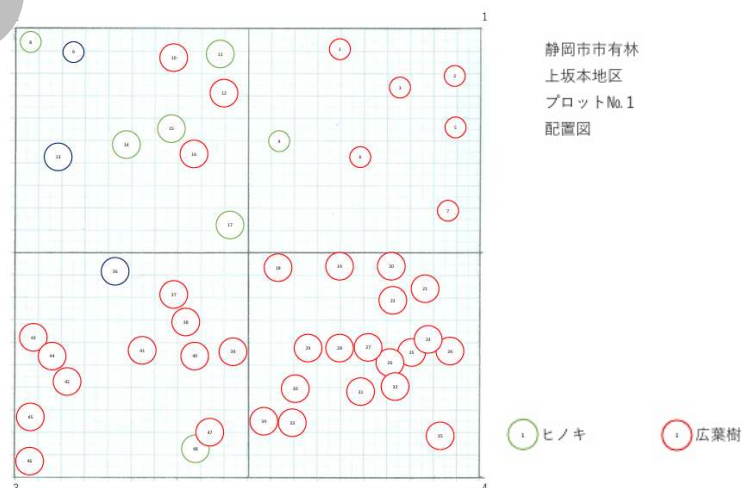
02 取組の背景

- 森林は、自然災害の防止や生物多様性の保全、地球温暖化の抑制といった公益性の高い機能を有しているが、近年、森林所有者の高齢化や林業の採算性の低下により適正に管理されず、荒廃した森林が増えている。
- 放置された人工林の針広混交林化を図ることで、森林の持つ公益的機能を低コストにて最大限発揮させていく必要がある。

04 実績

- 測量調査等3km²（森林作業道復旧調査、次年度植付予定地調査等）
- 標準値調査4箇所

01

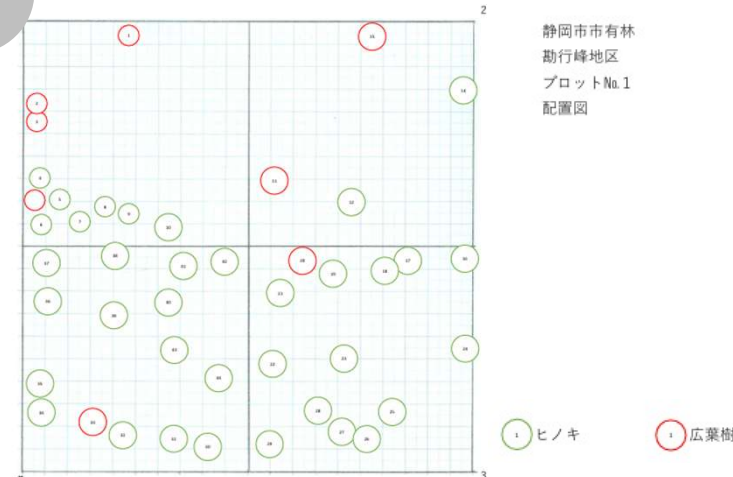


上坂本市有林 標準調査図

20m×20mにて二カ所を実施。

上坂本は傾斜が緩いが既存木により日照条件は悪い。勘行峰より環境が厳しく、実証適地。

02



勘行峰市有林 標準調査図

20m×20mにて二カ所を実施。

スギ、ヒノキが根付き育っているので試験植栽地としては不適。

01 事業内容

ナラ枯れ・・・ナラ枯れ対策事業を実施する者に助成を行う。

- 伐倒：被害木を伐倒して、くん蒸・破碎・焼却処理して材内のカシナガを殺虫する手法。
- 予防：樹幹注入、粘着剤塗布、伐採で未然に被害を防ぐ。

マツ枯れ・・・マツ枯れ被害報告があった箇所の処理を行う。

- 森林病虫害（マツ材線虫）による被害のまん延を防止するため、伐倒駆除、破碎処理を行う。

02 取組の背景

- 病虫害被害を放置することで、周辺森林への感染拡大や森林景観の悪化が懸念されている。
- 気候変動等の影響により、病虫害被害の長期化・広域化が進んでいる。

03 取組の目的

- 被害の早期発見・早期対応により、被害区域の拡大抑制が図られる。
- 周辺森林への感染拡大を防止することで、森林資源の保全につながる。
- 病虫害被害の拡大防止により、森林の公益的機能の維持向上が図られる。

04 実績

- 伐倒駆除：マツ 3 本（伐採材積：11.87ha）
清水区岡町、駿河区中島



松くい虫防除（伐倒駆除）業務（清水区岡町）

松くい虫による被害を受けたマツは、夏から秋にかけて、それまで緑色だった葉が急に赤褐色に変色し、その後枯れてしまう。枯れたマツをそのままにしておくと、その木からマツノマダラカミキリが発生し、周辺のマツへ被害を広げる可能性があるため、被害の拡大を防ぐために被害木を伐倒。

1 - 1 1 ~ 1 3 林道維持、林道整備事業

R7活用額
165,814,064円

01 事業内容

林道の修繕、改良工事、維持工事

- 路面の整正、堆積土砂の除去、木柵設置などの維持修繕を実施
- 法面の保全、路面の舗装、路肩構造物などの局部改良を実施

03 取組の目的

- 作業車両や高性能林業機械の通行が安定し、木材の搬出効率が向上する。その結果、搬出コストの低減や作業時間の短縮につながり、持続可能な林業経営を支える基盤となる。
- 小規模な修繕や維持工事を継続的に行うことで、大規模な崩壊や全面改修を防ぎ、ライフサイクルコストの削減を図る。

02 取組の背景

- 戦後の拡大造林政策によって、スギやヒノキなどの針葉樹を大規模に植栽し、木材生産を目的とした人工林が増えたことで、生産基盤としてその面を支える林道の開設が一体的に進められてきた。
- 林道の一体的な開設から50年以上が経過し、林道の老朽化が進んでいるため、維持管理コストが年々増大している。
- 静岡市では154路線474kmの林道を管理しており、林道全体に係る維持管理コストの低減を図ることが課題となっている。

04 実績

- 維持・改良工事 8 路線（629m）、維持修繕110箇所、橋梁修繕 1 箇所

01



林道大島沢線改良工事 “路面舗装”

雨などによって傷んだ林道の路面を舗装し、道路を長く安全に使えるようにする。路面の凹凸や土砂の流出を抑えることで、森林の手入れや木材の運搬など、林道を利用する車両が通行しやすくなる。

02



林道桑又線修繕 “丸太柵設置”

雨で山の斜面の土が流れ出すのを防ぎ、林道と斜面を守るために丸太柵を設置。長期的には、土砂・落葉等が溜まることで土壌が形成され、草木が定着しやすくなる効果もある。

2-1 林業機械購入費、作業道開設補助金

R7活用額
15,580,500円

01 事業内容

林業機械購入費補助金

- 高性能林業機械の導入を支援し、作業効率の向上を図る。

作業道開設補助金

- 作業道の新規開設を支援し、森林整備や木材搬出を促進する。

03 取組の目的

- 森林施業に係る労働安全性の確保及び低コスト化により市産材の安定供給体制が構築される。
- 林業機械購入費補助金及び作業道開設補助金により、林業経営体の設備投資に係る負担軽減を図り、森林整備の効率化及び木材生産体制を強化する。

02 取組の背景

- 育林、伐採、搬出に係るコスト高と木材価格の低迷により林業採算性が低下している。
- 急峻で複雑な地形により森林整備コスト（路網整備、育林作業、伐採、搬出作業）が高い。
- 担い手不足により森林整備の継続が困難である。
- 静岡市では、森林整備を担う林業経営体の収益性が低く、高性能林業機械の導入や作業道の開設に必要な初期投資が大きいことから、事業量の拡大や生産性の向上が進みにくいことが課題となっている。

04 実績

- 林業機械 1 台導入、森林作業道開設2,199m

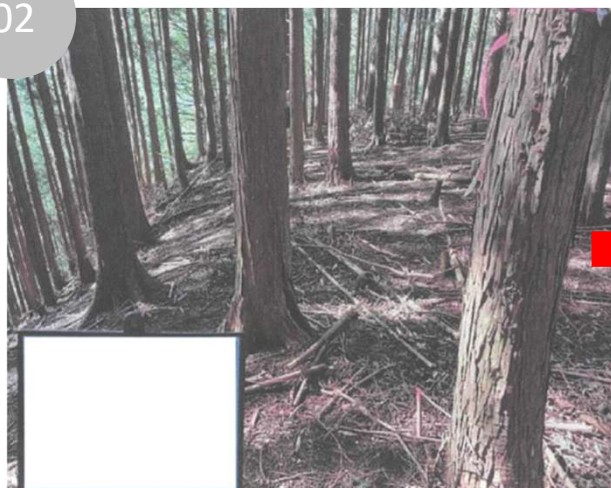
01



林業仕様の4tダンプ

木を伐採した木材を木材市場まで運ぶトラック

02



作業道・開設前

森林内での施業をする前の状態。
森林の施業が難しい。



作業道・開設後

一体的に作業道の開設を実施。機械等が通れるようになり、効率的に森林の施業が行えるようになる。

2 - 2 林家指導等補助金

R7活用額
4,395,740円

01 事業内容

林家指導等補助金

林業従事者への技術・安全研修を支援。

- ・ 森林施業の集約化に向けた普及活動を支援。
- ・ 森林教育及びオクシズ材利用を促進。

03 取組の目的

- ・ 林業従事者への技術・安全指導や森林所有者への集約化に向けた説明会の開催を支援するとともに、小中高生等への森林環境教育を行う。

02 取組の背景

- ・ 林業作業中の労働災害リスクが高い。
- ・ 森林施業の集約化が十分に進んでいない。
- ・ 森林への理解や木材需要が不足している。
- ・ 静岡市では、林業従事者の安全確保や森林施業の集約化が十分に進んでいないことに加え、市民の森林に対する理解や市産材の利用が十分に浸透していないことが課題となっている。

04 実績

- ・ 技術的指導117回、研修や普及啓発イベント等40回実施

01



啓発・広報活動

産業フェアのイベントなどで、森林・林業について広める活動を行う。

02



小学生向けの森林教室

森林の中で、森林環境について学んだり、伐倒の様子を見学。

2-3 産業フェア「林業ゾーン」の開催

01 事業内容

産業フェア（林業ゾーン）の運営

- ・ 産業フェアで林業の魅力を発信
- ・ チェーンソー体験や薪割り体験を実施
- ・ オクシズ材（市産材）のレンガで遊べるスペースを提供

03 取組の目的

- ・ 参加者の森林・林業への理解と関心を向上させる。
- ・ 木材や森林の魅力を発信するとともに、チェーンソー体験などを通じた林業の普及啓発を図る。
- ・ 林業の担い手確保につなげる。
- ・ 森林やオクシズ材の利用を促進する。

02 取組の背景

- ・ 日常生活のなかで、市民が林業を知る機会は少なく、林業への興味・関心が低い。
- ・ 森林が有する様々な機能や役割について、市民に十分に認知されていない。
- ・ 林業従事者は減少傾向にあり、担い手不足が課題となっている。
- ・ 森林や林業について市民の理解を深め、興味・関心を高めてもらうためには、林業や木材に直接触れ合える機会が必要である。

04 実績

- ・ 産業フェアの開催2日間
(チェーンソー体験 285名、薪割り体験 349名)

01



チェーンソー体験

開催2日間で、285名が体験。

02



チッププール

ヒノキのチップを用いて、子供が遊べるプールを作成。

03



シズレンガ

オクシズ材で作った積み木「シズレンガ」で遊べるブースを展開。

2 - 4 林業担い手育成・支援対策事業補助金

R7活用額
448,017円

01 事業内容

林業従事者の資格取得費、安全装備等の導入経費を支援

- ・ 林業労務者振動病対策事業補助事業
- ・ 林業労務者安全衛生対策補助事業
- ・ 林業作業員災害保険加入促進事業

03 取組の目的

- ・ 林業従事者の技術力向上を促進。
- ・ 担い手の確保・定着に寄与。
- ・ 労働災害の防止と安全性向上。
- ・ 林業事業体が実施する振動病対策や労働安全対策等に対する支援を実施し、担い手の確保・育成及び定着を促進させる。

02 取組の背景

- ・ 安全確保と技術継承が必要。
- ・ 静岡市では、林業従事者の高齢化や担い手不足により、森林整備を担う人材の確保・育成が課題となっている。

04 実績

- ・ 振動病対策（健康診断）96名
- ・ 林業作業員災害保険 61名
- ・ 安全パトロール 1回（3班）

01



林業労務者安全衛生対策補助事業

林業者による作業の安全確認のため、現地でパトロールを実施。

02



林業労務者安全衛生対策補助事業

伐採現場を安全パトロールで確認。

3 - 1 藁科地域小中一貫校整備事業

R7活用額
24,000,000円

01 事業内容

藁科地域の小中学校5校を統合し、施設一体型小中一貫校の新校舎を整備する。

- ・ 新校舎建設工事の設計業務委託
- ・ 新校舎建設工事
- ・ 新校舎に使用する木材の製造・管理業務
- ・ 新校舎に使用する木材の製造・管理支援業務

02 取組の背景

- ・ 静岡市の中山間地域である藁科地域における地場産業の魅力や景観形成に寄与し、循環型経済の構築を通じて脱炭素社会への貢献を体感できる新校舎の建築計画が求められる。
- ・ 藁科地域の風土や周辺環境と調和し、児童生徒を始め地域住民にとって木の温もりが感じられ、長きに渡り愛着を持てる耐久性・防汚性を考慮した木造校舎が期待されている。

03 取組の目的

- ・ 藁科地域の風土や周辺環境との調和を図り、児童生徒をはじめ、地域住民が木のぬくもりを感じられ、長きに渡り愛着を持てるよう、地域材であるオクシズ材を活用した木造の校舎を整備する。

04 実績

- ・ 市産材を活用した木造の施設一体型小中一教育新校舎建設に係る設計
- ・ 建設工事発注に際し、先行する木材調達に係る設計書、仕様書等作成

01



木材の切り出し

02



木材の加工

03



新校舎イメージ(設計時点)

3-2 オクシズ材活用促進事業費補助金

01 事業内容

- ・ オクシズ材（静岡市産材）を活用した住宅・非住宅の新築・増改築等を行う施主に対する、木材使用量に応じた助成。
- ・ 対象者：オクシズ材を活用して住宅・非住宅の新築・増改築等を行う施主

03 取組の目的

- ・ オクシズ材の使用量に応じた助成を行うことで、住宅・非住宅の建築主等に対しオクシズ材使用に係るインセンティブを与え、民間建築物に対するオクシズ材の需要喚起を図る。
- ・ 本事業によってオクシズ材の活用が促進されることで、利用期を迎えた森林資源の循環利用を促し、森林の持つ公益的機能を発揮しながら木材生産を行う「循環林」の適正な維持管理の推進を図る。

02 取組の背景

- ・ 平成22年の「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」制定以降、公共建築物の木造率は増加している。
- ・ 一方で、民間建築物については、非住宅分野の木造率は低位にとどまっている。
- ・ 静岡市では、市内民有林人工林のうち、標準伐期齢を超えた森林面積が8割を超えており、成熟した森林資源の利用拡大が課題となっている。

04 実績

- ・ 公共施設 1 件 木材使用量 32.46㎡（うち国産材13.28㎡）
- ・ 住宅44棟 住宅における国産材使用量 533㎡

01



オクシズ材（静岡市産材）

02



オクシズ材を活用した住宅の骨組

03



事業実施のイメージ（出典：林野庁HPより）

01 事業内容

高山・市民の森の維持管理

- 敷地内に設置している学習展示施設の維持管理
- 森林環境の整備
 - 敷地内の森林の整備
 - 敷地内の管理道・歩道の整備

03 取組の目的

- 森林・林業への理解向上
- 森林散策機会の提供
- 森林環境教育の推進

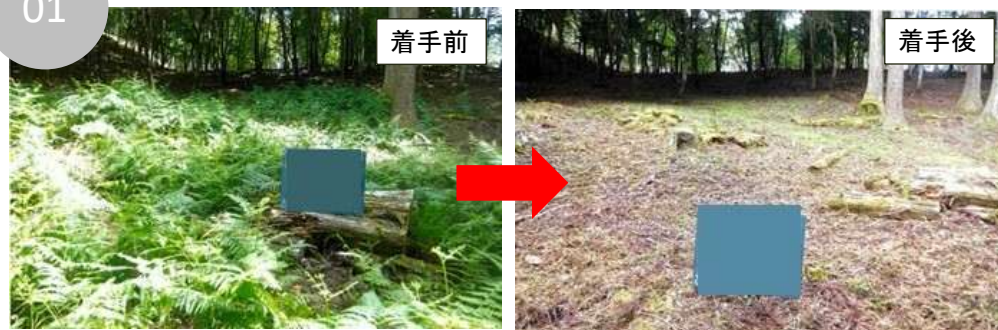
02 取組の背景

- 静岡市では、市民が森林や林業に触れ、理解を深める機会の確保が課題となっている。
- 高山・市民の森は、森林・林業の役割や重要性の普及啓発を行う場として、利用されてきた。今後も市民が森林に親しみながら、森林の持つ機能や木材利用の意義等について、理解を促進する機会を確保する必要がある。

04 実績

- 下刈3.10ha、管理道・歩道刈払い等（5,690m）
- 年間来訪者数5,629名

01



敷地内の森林（観察の森）の整備

下刈の様子。下刈りを行うことで、周りの草に負けずに光や養分を十分に受けられるようにし、木を早く健全に成長させることができる。

02



敷地内の管理道の整備

崩土処理の様子。
施設の維持管理のための管理道を整備し、市民の森林散策等に利用されている。

3 - 4 オクシズの森体感教室

01 事業内容

静岡市内での森林教室等の開催

- ・ 森林や林産物について理解を深めてもらうための教室を開催
- ・ チェーンソーの扱い方や丸太切りを体験する林業体験教室の開催
- ・ 市内小学校へ出張林業教室の開催

03 取組の目的

- ・ 教室の開催を通じて林業家との交流機会を創出し、適正な森林管理の必要性について市民の理解を深めるとともに、森林や林業に対する関心を高める。
- ・ 林業に興味を持ってもらうことで、将来的な担い手の確保につなげる。

02 取組の背景

- ・ 森林に親しむ機会が不足している。
- ・ 持続可能な森林管理を行っていくためには、市民が森林の有する公益的機能や林業の役割、適正な森林管理の必要性について理解を深めてもらう必要がある。
- ・ 持続的な森林管理を行うためには、林業の担い手を確保していく必要がある。

04 実績

- ・ 森林教室等 17回 参加者 413人
- ・ 出張林業教室 10回 参加者 476人

01



森林教室

森林に触れ、その働きについて学ぶ教室の開催。

02



しいたけ教室

市民向けにしいたけの種駒打ち体験ができる教室を開催。

03



林業体験教室

チェーンソーの安全な取り扱い方等を学ぶ体験型の教室の開催。

3 - 5 里山公園（谷津山）の利活用促進

01 事業内容

谷津山保全活用方針の作成

- 谷津山で活動する市民団体等との検討により、里山公園（谷津山）の利活用促進に向けた方針の作成。
- 同方針の作成において森林所有者への意向調査を実施。

03 取組の目的

- 市民が気軽に自然に触れることができ、眺望や散策、自然体験などを楽しむことができる身近な「里山公園」として谷津山の保全と活用を促進するために、谷津山の利用環境整備、拡大する放任竹林の対策を担う市民団体への活動支援、谷津山再生に向けた機運の醸成に取り組む。

02 取組の背景

- 谷津山の大部分は民地であるが、相続等により土地が細分化し、所有者が土地の場所や状況を把握することが難しく、適切な管理が行き届きにくい状況となっている。
- 竹林の拡大や土地の細分化などの課題に、多様な主体の連携により対応し、市民が気軽に楽しむことのできる里山環境を再生していくことが求められている。

04 実績

- アンケート等による森林所有者への意向確認実施面積 22.85ha
- 利活用促進に向けた方針作成を実施

01



谷津山保全活用方針

令和7年度に谷津山で活動する市民団体等と検討し、令和8年4月に策定。

02



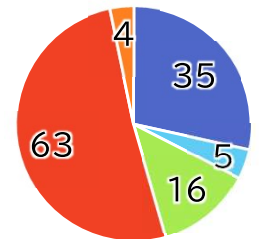
方針検討の様子

方針作成にあたり市民団体や地権者等で構成される谷津山保全活用検討会議を開催。

03

Q現在の維持管理状況（一つ選択）

- .ご自身・ご家族で管理...35
- .市民団体に管理を依頼...5
- .行政(静岡市)が管理...16
- .特に管理していない...63
- .その他.....4



有効回答数:123人

森林所有者意向調査の結果（抜粋）

一部地権者に対して、現在の管理状況、今後の意向等についてアンケート調査を実施。

3-6 オクシズの漆の里構想事業

R7活用額
2,000,000円

01 事業内容

オクシズ「漆の里」協議会が実施する試験栽培や人材育成、普及啓発、情報発信事業等に係る運営費の一部を負担する。

03 取組の目的

静岡市で漆を生産し、市内の重要文化財修繕や地場産業等で消費する「漆の地産地消」体制を構築する。

02 取組の背景

- 文化庁より市内重要文化財の修復には原則国産漆を使用するよう通達。
- 市内には、静岡浅間神社や久能山東照宮などの重要文化財があるが、ウルシの生産は行っていなかった。
- 市内でウルシを栽培し、採れた漆を市内重要文化財の修復に使用することを目指す。

04 実績

- ウルシの試験植樹（70本植樹）及び生育調査の実施
- イベント2回実施（参加者数72名）
- 漆の未利用材を使った商品製造・販売等

※ウルシ：樹木としてのウルシ

※漆：ウルシの内樹皮で生産される樹脂と木部樹液の混合した液体

01



生育調査の様子

九州大学の農学研究員 田端氏とともにウルシの生育調査を実施。適地条件などをまとめた。

02



オクシズ「漆」の学校の様子

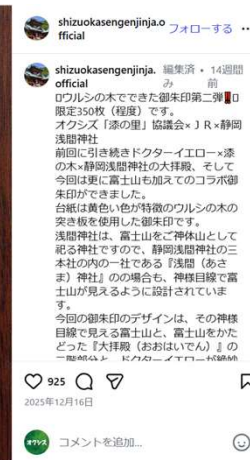
R7年12月に静岡浅間神社にて開催したオクシズ「漆」の学校には、65人が参加した。

03



漆の未利用材を使った御朱印の販売

漆の突板で御朱印を制作し、JRのEXサービスを通じて、約300枚販売した。



3-7 南アルプス共生推進事業

R7活用額
1,093,054円

01 事業内容

市民及び企業と連携した自然環境保全事業

- ・ 市民生き物調査員プログラムの実施
- ・ パートナーシップ協働業務の実施

03 取組の目的

- ・ 南アルプスの植生状況や動物を含む生態系に係る調査の実施及び環境教育人材の育成
- ・ 南アルプスパートナーシップ賛同者のノウハウを生かした登山道整備体験の実施による登山環境保全の担い手創出

02 取組の背景

- ・ 南アルプスの自然や歴史について知る人が少なく、歴史文化の継承が困難となっている。
- ・ 南アルプスの自然環境の現状（被害状況）や、保全活動の内容について知る機会がない。
- ・ 南アルプスの自然環境の保全に、地域、企業、個人が行政に協力して取り組んでいく仕組みが構築されていない。

04 実績

- ・ 市民生きもの調査員ツアーの実施1回（参加者数7名）
- ・ 登山道整備ツアーの実施1回（参加者数15名）

01



市民生き物調査プログラム

植生の樹種特定や樹高の測定、水生生物の生息状況調査等を行い、南アルプスの生態系に関する理解を深める。



02



登山道整備ツアー

市民参加型の登山道整備体験を通して、登山環境保全の担い手創出に繋げる。

3 - 8 森林認証取得事業補助金

R7活用額
881,752円

01 事業内容

森林認証取得事業補助金

- ・ 森林認証取得費用を支援
- ・ 森林認証維持費用を支援
- ・ 持続可能な森林経営を推進

03 取組の目的

- ・ 市産材の信頼性が向上。
- ・ 木材の販路拡大に寄与。
- ・ 森林認証の取得及び維持に要する経費を支援し、持続可能な森林経営の推進と市産材の利用促進に取り組んでいる。

02 取組の背景

- ・ 木材需要の拡大が求められる。
- ・ 静岡市では、適切な森林管理の推進や、市産材の付加価値向上による林業経営の安定化が課題となっている。

04 実績

- ・ FM認証（継続審査）：2件
- ・ CoC認証（継続審査）：1件

01

R3～R7交付実績

年度	補助額	件数	補助内容
R7	881,752円	3件	【FM認証】 2件（継続・764,877円） 【CoC認証】 1件（継続・116,875円）
R6	564,949円	2件	【FM認証】 2件（継続・266,000円）
R5	822,918円	3件	【FM認証】 2件（継続・572,918円） 【CoC認証】 1件（継続・250,000円）
R4	754,918円	2件	【FM認証】 2件（継続・754,918円）
R3	789,084円	3件	【FM認証】 2件（継続・538,084円） 【CoC認証】 1件（継続・251,000円）

01 事業内容

南アルプス保全活動等受入態勢整備事業

- ・ 植樹予定地の整備
- ・ 金網製防鹿柵の設置
- ・ 間伐材を使用した普及啓発品の活用

03 取組の目的

- ・ 植樹予定地の整備を通じた南アルプスBRの保全活動フィールドの創出
- ・ 伐採木を活用した普及啓発による南アルプスBRの認知度向上及び保全活動の拡大

02 取組の背景

- ・ 植樹予定エリアである井川蒸溜所周辺において、樹齢80年程のカラマツ林（人工林）が広がっており、生物多様性を損なうことが予想される。

04 実績

- ・ 植樹地の整備 0.1ha
- ・ 普及啓発品（キーホルダー）の作成 2300個

01



植樹予定地の整備

榎島口ツチ周辺の植樹予定地における既存樹木の伐採及び集積を実施。

02



金網製防鹿柵の設置

植生後の苗を鳥獣被害から保護するための防鹿柵を設置。

03



間伐材を使用した普及啓発品の活用

キーホルダーを作成し、イベントなどで活用することで南アルプス保全への関心を高めた。